



電子本をつくろう

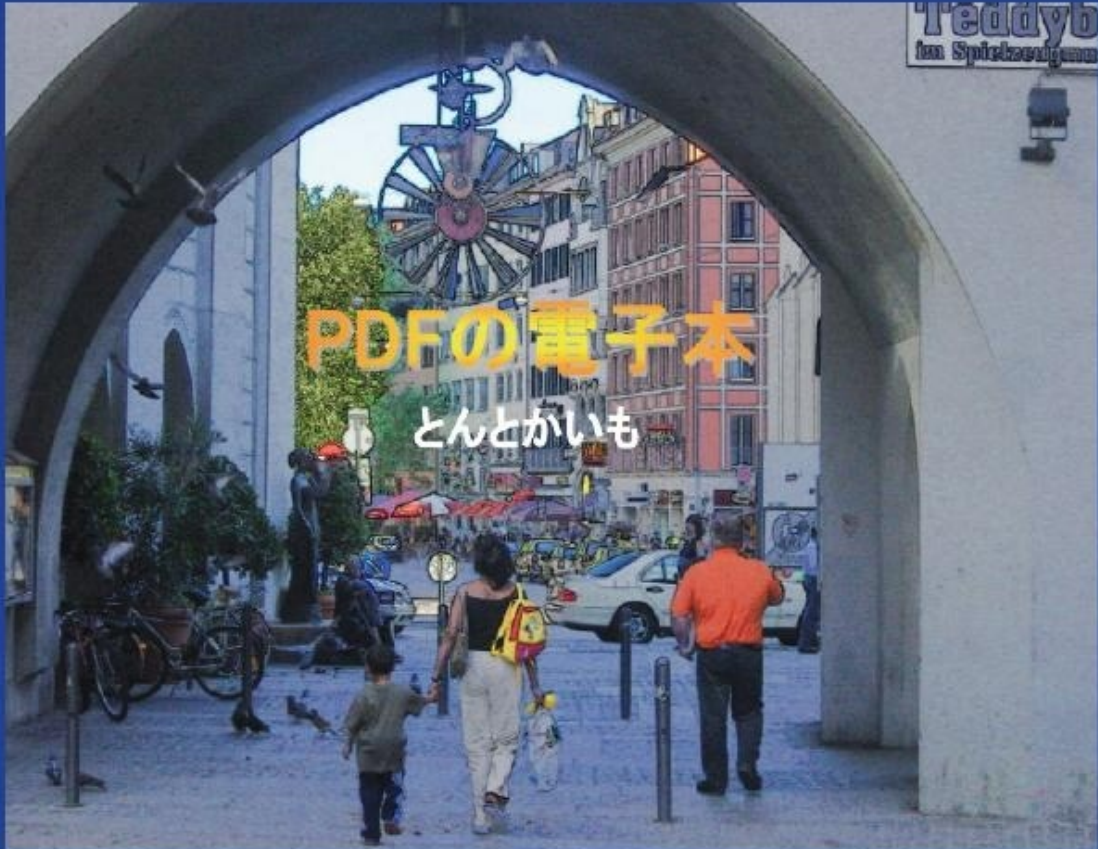
tontokaimo39

はじめに

既に10年以上の前になるのですが「PDFの電子本」という駄文を書いて、パプーのような無料掲載サイトに発表していました、中身は、ワードで書いてPDFに変換するという基本的なことに過ぎなかったのですが、背景を画像や単色にして白抜きの方法、青空文庫の振り仮名を消す方法、などを入れていたためか結構読んでいただいたのですが、残念ながらサイトが消えてしまいました。

まだ携帯用の読書端末など無かった頃（ソニーから出ていたのですがほとんど知られていなかった）電子本はありましたが専らPCで読むものだと思われていた頃、フォーマットとしてはT-Timeが注目され始めた頃、です。

時代は変わりました、今更こんなことを書いてももう...とは思いますが、電子本というのは市販のものを購入するだけでなく、こんな楽しみ方もあるのだということを知っていただければ...初心者の方の何かの参考になれば...と筆を取りました。



最も基本的でかつ簡単なのがPDFです。

まず私の使っているソフトを書いておきますと、「ワード」「いきなりPDF」ということになるのですが、共に古いバージョンで、「ワード」ではまだPDFを生成することができませんし、「いきなりPDF」も現在は進化しているようです。ただ基本は同じですので参考にしてください。「いきなりPDF」は有料ソフトですが、PDFについてはほぼ万能、これ一つでほとんどのことができてしまいます、現在のワードはPDF化も可能と聞いていますし、PDF化の無料ソフトも「プリモPDF」「キューブPDF」など様々なソフトがあるようですが、これらのソフトは、プリンターとして動くものが何かと便利です。

要するにワードで書いてPDFに変換です、もちろん自分で文章を書いてもいいのですが、始めは青空文庫のテキストファイルを借用するのが簡単です。青空文庫からはzipファイルをダウンロードします、これを解凍して出来たTXTをワードに貼り付けるのですが、注意するのはワードのページ設定で、1ページ1画面でスクロール不要のPDFにすること、(ここではPCの画面を指します、携帯用読書端末については後述)スクロールしながら読むのでは、特に縦書きの場合読書の雰囲気にはなれません。

フォントの種類や大きさなどは好み次第、これがワードを使ういいところです、以前「正に編集長気分」と書いたのですが、挿絵やカットなどを自由に入れることも出来るのです。

支那の上海《シヤンハイ》の或町です。昼でも薄暗い或家の二階に、人相の悪い印度《インド》人の婆さんが一人、商人らしい一人の亜米利加《アメリカ》人と何か頻《しきり》に話し合つてゐました。

「実は今度もお婆さんに、占《うらな》ひを頼みに来たのだがね、——」

亜米利加人はさう言ひながら、新しい煙草《たばこ》へ火をつけました。

「占ひですか？ 占ひは当分見ないことにしましたよ。」

婆さんは嘲《あざけ》るやうに、じろりと相手の顔を見ました。

「この頃は折角見て上げても、御礼さへ碌《ろく》にしらない人が、多くなつて来ましたからね。」

「そりや勿論御礼をするよ。」

亜米利加人は惜しげもなく、三百一弗《ドル》の小切手を一枚、婆さんの前へ投げてやりました。


「差当りこれだけ取つて置くさ。もしお婆さんの占ひが当れば、その時は別に御礼をするから、——」

婆さんは三百弗の小切手を見ると、急に愛想《あいそ》がよくなくなりました。

「こんなに沢山頂いては、反《かへ》つて御気の毒ですね。——さうして一体又あなたは、何を占つてくれろとおつしやるんです？」

「私が見て貰ひたいのは、——」

亜米利加人は煙草を啣《くは》へたなり、狡猾《かうくわつ》さうな微笑を浮べました。



天地《あめつち》の分れし時ゆ、
神さびて高く貴き駿河なる富士の高嶺《たかね》を、
天の原振りさけ見れば渡る日の、影も隠《かく》
く《ろひ》、照る月の、
光も見えず、白雲もい行憚《ゆきはゞか》り
時じくぞ雪は降りける、
語り継ぎ云ひ継ぎ行かん富士の高嶺は。(赤
人)

背景に画像を使う

背景を白以外にしたり、画像を使う方法を簡単に述べておきます。



マザア・グウスのおばあさん、

いつもであるくそのときは、

きれいながちようの背にのって、

空をひようひよう翔《か》けてゆく。

マザア・グウスのすむ家《いえ》は、

一つ、ちんまり、森の中、

戸口にや一羽の鳥《ころすけ》が

みはりするのでたっている。

むすこがひとりで名はジャック、

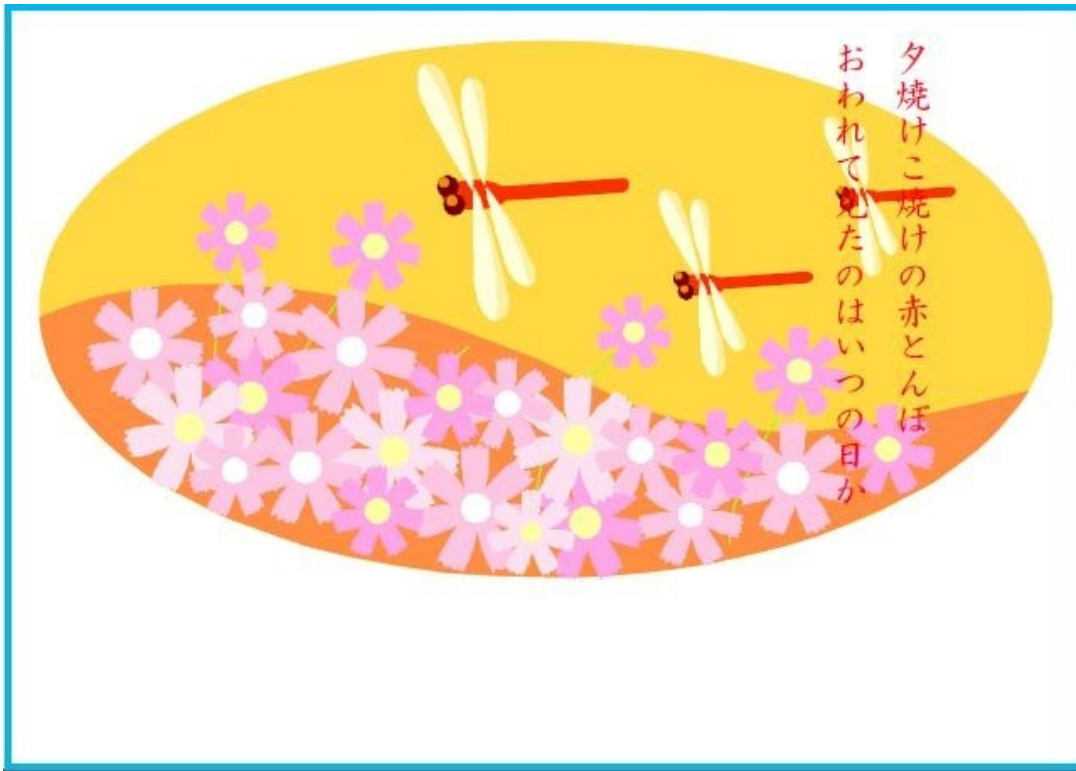
その子まずまずお人よし、

ずんとよいことせぬ代わり、

ずるいわるさもようしえぬ。



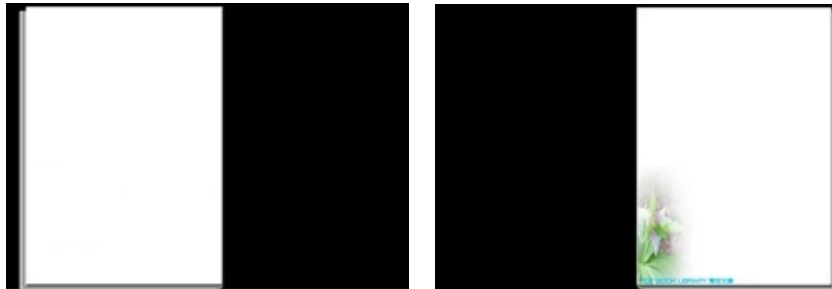
左のような塗りつぶした画像（jpg）を用意しておき、目的のページに貼り付けます、ページの余白は無視して一画面全体に引き伸ばし、「テキストの折り返し」で「背面」に設定します、続いて文字を白にすればOK、このとき背景が動くようでしたら直します、背景画像の大きさはあまり小さいものでなければどんなものでもかまいませんが、絵の場合は歪みますので、縦横の割合をワードの画面と同じにしておきます。（私のワードは古いので、新バージョンでは操作が異なるかもわかりません。）



これはクリップアートを拡大したものです。

表紙を作ろう

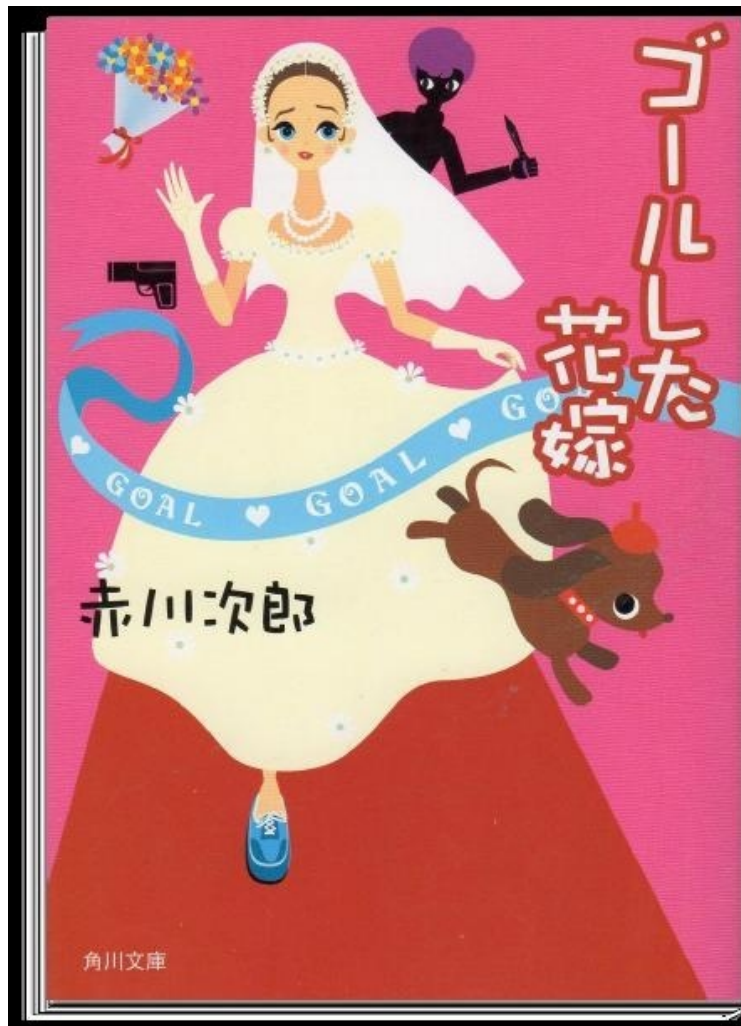
せっかくの電子本ですから、表紙をつくってみませんか。1ページ目（はじめに）のような見開きでもいいのですが、これだとTVのタイトルのような感じです、そこでより本らしく、閉じた状態の表紙にしてみました。



これは画像のように見えますが、ワードのdocファイル、また黒い部分を含めて一画面です。左は表、右は裏表紙。この白い部分に絵や写真を貼り付け、「ワードアートの挿入」機能で文字を入れると完成、このdocファイルをつくって置くと絵や文字を変えるだけで何度でも使えます。（右には何か絵が入っていますが、これは青空文庫に共通の裏表紙として私が使っているものです。）



下は自炊したものです、自炊ではカバーを別にスキャンしておき、貼り付けます。



角川文庫



こうすると本らしくなりませんか。

作業の流れをまとめると次のようになります。

本文作成（扉や奥付をつけるとより凝ったものになります）→PDF化

表紙作成→PDF化

裏表紙作成→PDF化（これはよく省略）

出来た三つのPDFを結合

問題はPDFの結合ソフトですが、これもいろいろなフリーソフトがあるようです
もちろんワードで表紙から裏表紙まで一続きのファイルとしてつくることも可能です、この場合PDF結合ソフトは不要です。（私は表紙の原型を作っておき、必要に応じ、結合して使うようにしています、これだとワード以外のソフトでつくったPDF、既に完成しているPDFにすぐ表紙を加えることができますし、「いきなりPDF」の結合では、設定によって、全画面表示で起動するPDFになるために、わざわざ表紙を結合させているのですが、これは、読書という以上邪魔なもの無い全画面表示で読みたいからです。）

私のパブ一本について

つまらないものですが、赤川次郎氏「幽霊シリーズ」の贋作を発売しています。これもワードで書き、PDFを作成、さらにjpgに変換した画像です。縦書きで一画面が一度に読めるようにしたのですが、IE表示100%だと下余白がずいぶん無駄になっています、これはIEでの拡大150%で読むことを原則にしているためで、私の視力ではこの程度がちょうどいいのです。私的なことはともかく、パブでも縦書き表示ができるという一つの見本になれば幸いで、これなら挿絵なども自由な位置に入れることができます。（ただし訂正は非常に面倒になります、そのため私のパブ一本は誤字や脱字だらけ、きちんと校正してから発表すればいいのですが...それにPDF化にも下余白に問題が残ります。）

一応ワードの設定を書いておきますと、用紙・・・幅106 高さ110 余白・・・上4 下25 左右10 それぞれmm フォント・・・9Pということになります。

「私が、美弥子を殺した…そう、美弥子は私が殺したのだ…私を母の様に慕っていた美弥子を…私は、娘のように思っていた美弥子を…」

「ねえ喬一、この週刊誌の記事、どう思う？」

「ロシアンルーレットか、後味の悪い事件だが誤って毒物を飲んだのだからまあ事故だろう」

「夕子先輩、私そのお二人知ってるのです」

「えっ、直子の知人？」

「はい、それ程親しい方ではないのですが三度ほどお会いしたことがあるのです」

「どう言うこと？」

「最初にお会いしたのは、父とあるパーティーに出た時です」

「花屋さんでしょう、直子のお父さんが出るパーティーに？」

Chain Lp

「Chain Lp」というソフトをご存知と思います、実に多機能な凄いソフトなのですが、フリーソフトとして提供されています。何が凄いか？これは数々あるのですが、まず生成されるPDFの解像度をソニーのリーダーW584H754からPCのXGA W1024H768まで、自由に設定できることがあります、自分の使う端末に合わせて設定すればよく、より細かな調節もできます。

次に元データは、TXT、JPG等の画像の他に既成のPDFそのものも使うことができること（画像PDF）、先にワードを使い青空文庫のTXTをと書きましたが、本来ワード（一太郎でもいいですし、その他TXT編集ソフトでも）を使うのは自分の文章の場合で、青空文庫なら直接この「Chain Lp」を使えばいいわけですね。（青空文庫についてはもっと凄い機能が秘められているのですが後述）

まず私が最もよく使っていることがらから書いておきます、自炊には「ScanSnap 1500」を使っているのですが、使い始めて最初に躓いたのが、モノクロですが写真や挿絵の入った本、文字だけの本なら白黒でスキャンすればいいのですが、これだと写真や挿絵は黒く潰れて汚いものになってしまう、そこでグレーでスキャンすると写真挿絵は綺麗なのに今度は紙の色がグレーで入ってしまい、薄暗い画面に...ということでした。

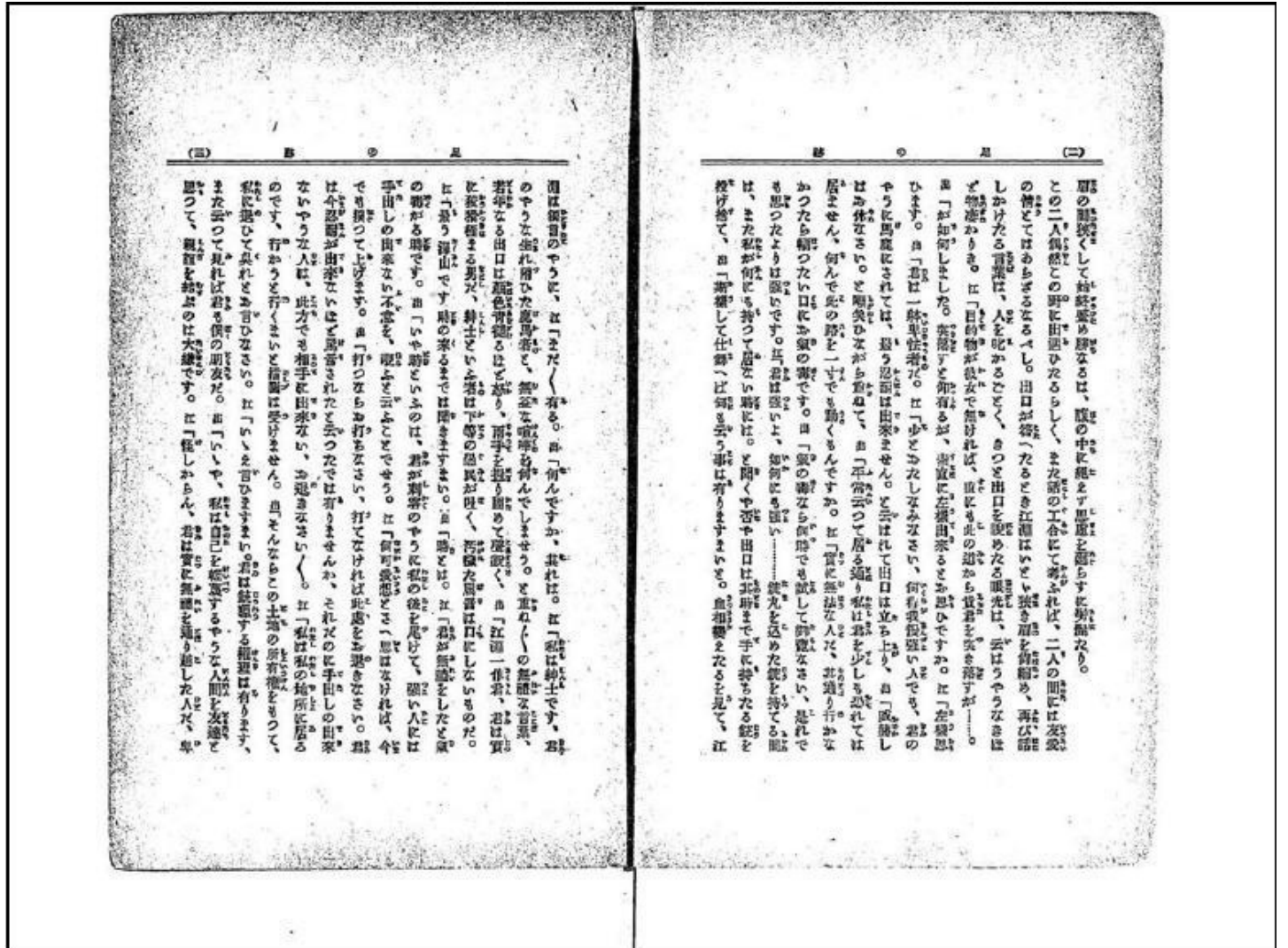
「Chain Lp」はガンマ値を下げる（上げる）ことができるのです、そこでスキャンはグレーモードで、入ってしまった紙の色はガンマ値を下げてできるだけ白に近く、こうするとスキャンしただけのものに比べると見違えるくらい綺麗になります。もちろんガンマ値が下がっているわけですから、文字、写真なども全体として薄くなります、これはどのあたりで妥協するかですが。



左はグレーモードでスキャンしたまま、右はChain Lpで修整、これはコミックの例です。ただどの程度値を下げてもいいかは、元の原稿によって異なりますので、ある程度試行錯誤ということになります。

余白除去

私のよく使うChain Lpの機能のもう一つは、余白除去です。余白をカットすればその分文字が拡大され読みやすくなるためですが、まあ目のいい方にとっては必要がないかも知れません。ここでは少し変わった使用例を挙げておきます。



国会図書館の近代文庫からダウンロードしたPDFで「足の痕」という明治の探偵小説なのですが全画面表示にしても文字が細か過ぎます。

君は私の父を、富有者だと思ひなさいませぬ。曰「何を仰有る、貴女の婚父さんは此の形骸でも、指折りの富有者では有りませんか。君「左様と思ひでしやうが、實は違ひませぬ。富有者と今言はれたのは、全く江潮の光臨なのださうでございます。曰「左様な事が、馬鹿な、馬鹿と思へるものですか。君「まあお明なさいまし、貴君も御存知でございますが、我が家の父はこの湖津の大地村へ、第一橋に住ひ初めましたもので、買ひ置せるだけ近邊の地を買ひ、随分財産を蓄えましたが、それが如何かした機嫌で有つた見えますして、彼の江潮が二三日前地面建物とも強はず明け渡すやうに申して参りました。曰「江潮が。君「はい。江潮は私の婚父の朋友の子で、富有者やを引受けて居るさうでございます。曰「へえ、それで貴女の婚父さんは、江潮の言葉を承知なさつたのですか。君「さう、然りも然り、即ち見せられましたが、法に合つて居るものさうでございます。と雖もなる言葉に出口は少し考へしが、曰「成る程、その請家を捨てる代りに江潮は貴女を授けたいと云ふのですか。君「はい、一月前發して、別居が切れば結婚したいと申したさうでございます。曰「婚父さんは御承知ですか。君「はい。曰「貴女は。君「何卒よく聞なさいて下さりまし、私の辛らうい心を話し申ませう。私の母が亡くなりまし

てからは、婚父の財力に何一つ背いた事はございません。只今では婚父も平を取りまして、金で子供のやうに身軽も弱くなりました。左様でございますのに、婚父が生れました家、今は死に所どいたして居りますから、縁組はならぬことになりました。然し老年者の住ふ家が無くつて、衣食者になり下るのを見ては居られませんが、それゆゑ私は決心いたしました。心算でございます。と溢れ落ちぬど眼の中には、堰き止り難き涙の見えけり。何と申してか出口は片頬に突きて、曰「お念さん強く決心なさいました。成心して養ひておいたさ決して親類等とは出来ません。が、一つ御注意申したいのは、江潮が金計の限に掛つて、親類にお成文なると申さず。君「仰有ることが理宜なら、如何に嬉しいか知れませんが、それにしては婚父の申言が餘り強ひてはございませんか。曰「お念さん、私と約束して下さらないか。君「婚父の爲にならぬやうな邪慮立ては、お断り申す。曰「いやそんな事ではありません。君「ではお約束おたしませう。曰「貴女は何卒云ひ神を閉めて、江潮が目を投げるまで、この婚約を破り下さないせんか。君「それは願ふてもございませぬが、婚父が強く附りますやうでは……。曰「その時はお断りなすつても宜しうございませぬ。それから最一つは、此の事から若し貴女のお身軽が自由になつた際には、私と

左右と下の余白をカットしてみました、これならなんとか読むことができます。（さらにカットすればいいのですが、国会図書館のものは画像の位置が一定していないのでこのあたりで止めておきました。）

白、グレー、黒の割合や余白除去はより詳細に設定ができます。

Chain Lpと青空文庫

Chain Lpは自炊には欠かせないソフトですが、青空文庫に対しても強力な機能を持っています。青空文庫のサイトにアクセスする必要なく、検索とダウンロードが可能なのです。

起動させて「ツール」をクリックすると「青空バッチ」「青空ダウンローダー」のメニューが出ますから必要に応じて使用します。

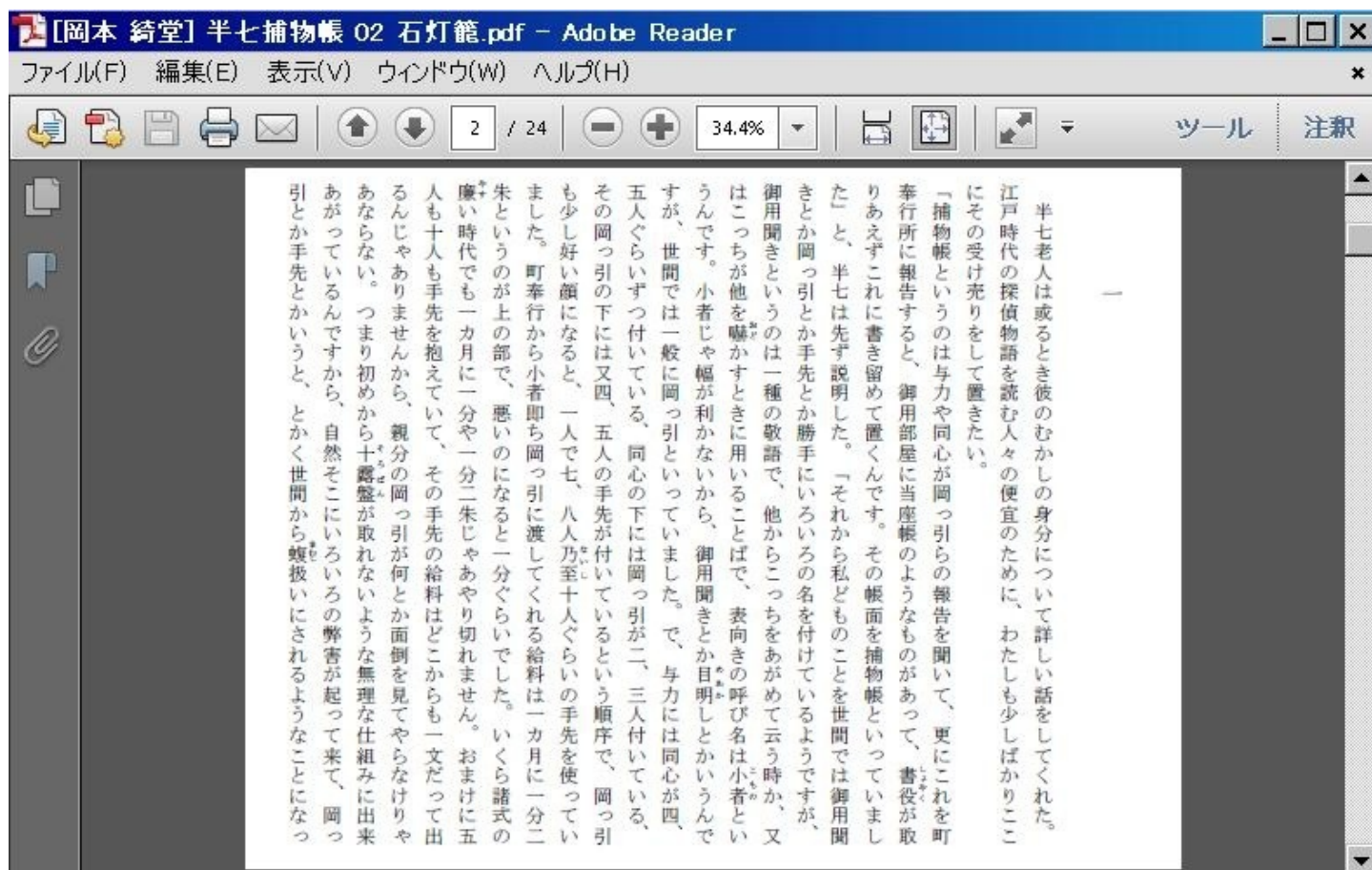
「青空ダウンローダー」

zipファイル、datファイル、PDF（もしくは他の形式）ファイルが一度にダウンロードできます。

「青空バッチ」

ここでは選択した複数のPDFファイルが自動でダウンロードできます、例えば岡本綺堂の半七捕物帳を全て選択すると、自動で60にも及ぶ半七のPDFが出来るわけです。（私のPC、VISTAでは多数のファイルを一度に入れるとエラーの表示が出るのですが、かまわず走らせておけば正常にダウンできています。）

Chain Lpは必ず新バージョンを使ってください、これは青空文庫側がフォーマットを変更したためで、旧バージョンではうまく動きません。

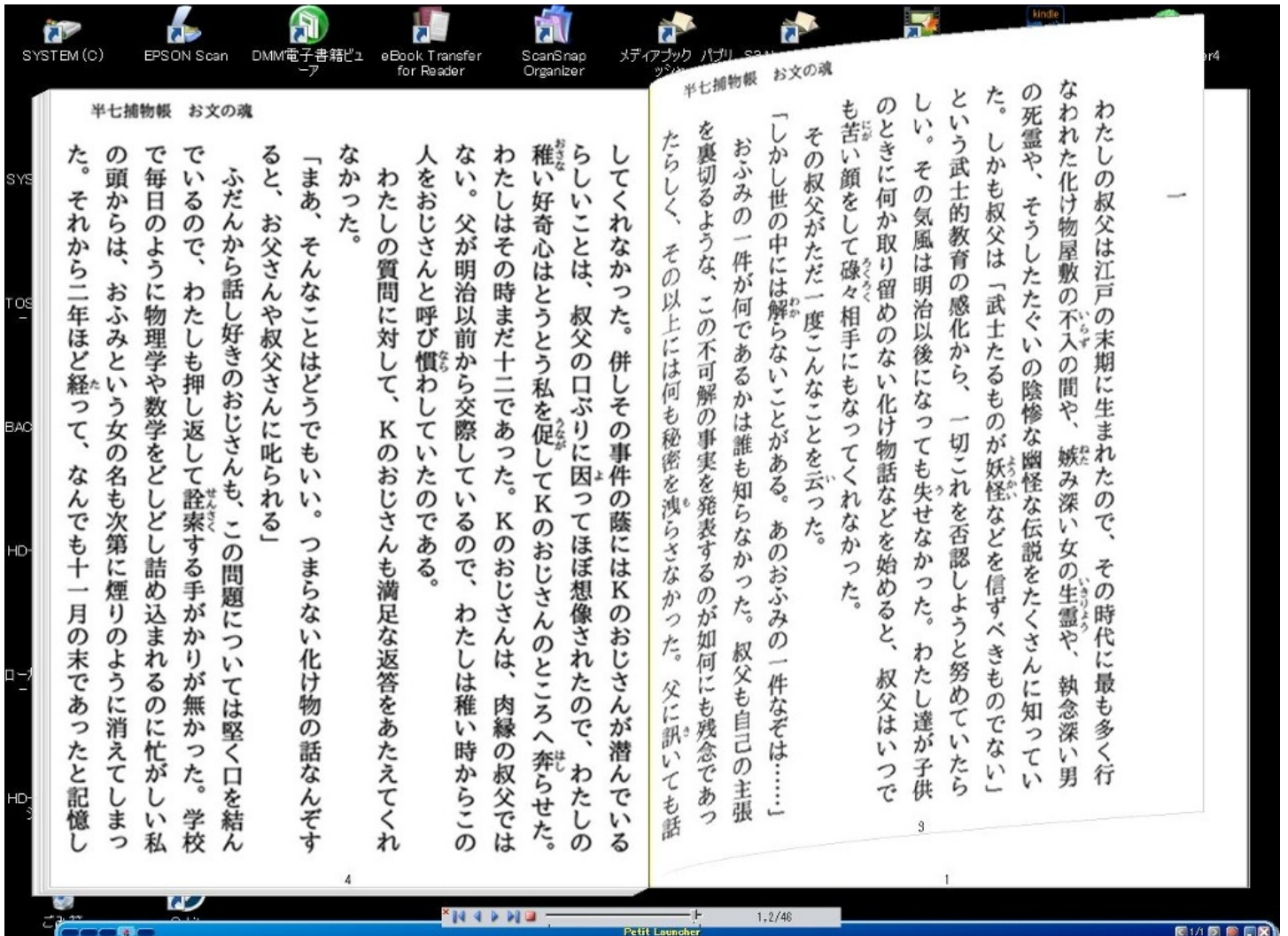


本というと、ページをめくりながら読みたくなってきます。PDFのリーダーにもこの機能があるものを見つけたのですが、海外のソフトのため、左綴じしかできませんでした。私が使っているフリーソフトを二つ紹介しておきます。

Seasaidsoft「メディアブックパブリッシャー」

もともとは建築作業経過写真のアルバム作成ソフトだったようです。そのため画像しか読み込めないのですが、PDFを画像化すれば、めくれる文章の電子本ができあがります。私は画像化に「いきなりPDF」を使っていますが、ScanSnap1500に付属していた「ScanSnapOrganizer」でも可能です。

このソフトのいいところは、EXEファイルとして出力できること、これならソフトを持っていない人に渡すことができるわけです、EXEですからPDFのようにアイコンに内容が表示されないのですが、「メディアブックシェルフ」という本棚ソフトも用意されています。欠点は起動が遅いことですが、起動してしまえばスムーズに動きます。



「窓の中の物語」

軽快に動きます、紙にあたる背景に羊皮紙などというものが用意され、音楽を聞きながら読書もできるおもしろいソフト。作者はサイトを閉じているのですが、別の場所からダウンロードできます。(背景は自分でつくったものも使えます。)

—

招待席

森志げ

もりしげ作家本名森茂子・鷗外夫人1880.6.3—

1936.4.18 東京に生まれる。掲載作は、「森しげ女」の名
 乗りで明治四十四年(1911)九月一日創刊「青鞥」第一巻第
 一号所載の小説。長谷川時雨、岡田八千代、与謝野晶子、
 国木田治子、小金井喜美子らとともに「森しげ子」は青鞥
 社賛助員であった。雑誌「青鞥」は主幹格らいてう(平塚
 明子)による感想「元始女は太陽であつた」により喧伝さ
 れ一時代を画した。創刊号巻頭には与謝野晶子の「女」宣
 言でもある「そぞろごと」が掲載され、此の「電子文藝館」
 にも抄出してある。

死の家

今年の梅雨は例年にまして、雨が多かつた。雨ばかりではない。風さへ加は
 つて、秋のあらしの様になつて、風をきらふ弓子を、厭(いや)がらせた。

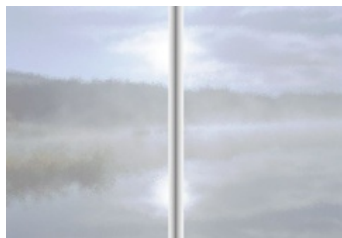
久しぶりで今日は、晴々とした、好い天気になつた。丁度日曜日である。毎
 朝きまつて六時になると起しに來る小間使の初が、日曜日だけは、弓子の室
 の

雨戸さへ、起き出るまでは開けずに置くのである。

弓子は四畳半の化粧部屋へ這入つて、初の持つて來てくれる一ぱいの桶の湯
 と水指の水と空虚(から)のバケツとで、朝の身じまひをする。髪を解かして

か
 なり手数の掛かる庇髪(ひさしがみ)に結(ゆ)つて、齒を磨く。それから西洋
 お

白粉で薄化粧をして、學校行の着物を着て、袴を穿(は)いてしまふまで、凡



背景(用紙)の例

おわりに

青空文庫なら様々な縦書きで読めるソフトがあります、私が気に入っているものでは「Page 1」、これは画像出力ができますから、「Chain Lp」に読ませると、自分で設定した通りのPDFが、「窓の中の物語」には出力機能はありませんが、CDからでも動くので複数のTXTと一緒に入れておくと電子本CDが...

携帯端末用には「青キン」「青P」サイトでは「ソニーリーダーで青空文庫」などなど...

場合によってはいろいろ使ってみるのも面白いのですが...（実際は「Chain Lp」があればほぼ万能ですね、私は専らPC全画面で読むので、携帯端末には興味がありません、それでも「Chain Lp」のリーダーやKindleの画面設定は役に立っています、ではどう使うか、これを述べて終りにします。

Kindleなどの画面設定で出力すると、当然縦長のページになりますね、これを再び「Chain Lp」で両開きにすると読みやすくなるのです。（画像PDFとして出力したもの）（青キンのサイトで作ったものは「Chain Lp」では読めないのですが、jpgに変換すると読めるようになります。）

「Chain Lp」をはじめ様々なソフトを発表してくださっている作者の方々に感謝いたします、本来ならこれらの方々についてより詳細に述べておくべきなのですが、ここでは省略させていただきます。

と、読むよりいじって楽しむようなことになってしまいましたが、要するに退職者の暇つぶしです、ごめんなさい！

電子本をつくろう

<http://p.booklog.jp/book/76019>

著者 : tontokaimo39

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/tontokaimo39/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/76019>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/76019>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブックログ